

産 業 競 争 力 強 化 対 策 特 別 委 員 会 記 録

1 会議の日時	令和2年12月16日(水)	開 会 午前 9時57分 閉 会 午前11時33分
2 会議の場所	議会西棟3階 第2会議室	
3 出席者	委 員	委員長 岩井 豊太郎 副委員長 平岩 正光 伊藤 正博 渡辺 嘉山 小川 恒雄 松村 多美夫 田中 勝士 広瀬 修 恩田 佳幸 山内 房壽 安井 忠
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐 蕨 野 孝 係長 青木 陽輔	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
<p>1 産業競争力強化対策に関する調査について</p> <p>(1) 伝統産業における自動化技術の活用と競争力強化について</p> <p>参考人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 光洋陶器株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専務取締役 加藤 伸治 氏 <p>(2) 自社技術の創造と国際的視野を持つ技術者の育成について</p> <p>参考人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大垣精工株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表取締役会長 上田 勝弘 氏 ・ 常務取締役総務部長 柳瀬 靖治 氏 <p>2 その他</p>		

6 議事録

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、産業競争力強化対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、産業競争力強化に関し、今年度の重点調査項目としている生産性向上及び高付加価値に関する調査と多様な人材の活躍に関する調査について、協議いただくため開催したものである。

本日は、現状等を報告いただくため、参考人として、光洋陶器株式会社から専務取締役 加藤伸治様、大垣精工株式会社から代表取締役会長上田勝弘様と常務取締役総務部長柳瀬靖治様の3名にお越しいただいた。

ご多用のところ、お越しいただき、感謝申し上げます。

はじめに、第1部として、伝統産業における自動化技術の活用と競争力強化について、ご報告いただく。

質疑については、報告終了後をお願いする。

それでは、参考人からの報告をお願いする。

(挨拶・議題に関する報告：加藤伸治参考人)

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、ご質問等はあるか。

○小川恒雄委員

エンドユーザーに陶磁器を販売する間に一次、二次の卸を介するとのことだが、利益を大きくするため、野菜の産直販売のように卸を排除し、メーカーから直接エンドユーザーに商品を販売できないか。また、将来的には直接販売を拡大していく予定だが、現状は卸を介している状況なのか。

○加藤伸治参考人

メーカーからの直接販売は良い面もあるが、非常に手間が掛かることもあり、卸を排除すればいいというわけではない。将来的には卸と直接販売の比率はバランスが取れたところで落ち着くと思っている。

○伊藤正博委員

正社員が112名いるとのことだが、職種の構成はどうなっているのか。

○加藤伸治参考人

製造部門7割、販売企画部門2割、間接部門1割である。最近は、自動化が可能な製造部門の人数を減らし、提案や情報発信など、人にしかできない業務を行っている販売企画部門の人数を増やしている。

○伊藤正博委員

自動化の取組みについては、どのようなメーカーに依頼しているのか。

○加藤伸治参考人

伝統産業では業界の特殊ルールや、職人の経験、勘が残っているため、自動化のためのロボットを開発するにも調整に時間がかかり、大手メーカーでは対応が困難である。そこで、外部研修を活用して社内人材を育成しているほか、地場のメーカーと一緒に研究しながら自動化に取り組んでいる。

○岩井豊太郎委員長

新製品を作る際は、どのようにニーズを把握しているのか。

○加藤伸治参考人

自社の強みは、レストランやホテルなどのプロの方に商品を提供していることであり、プロの方から直接ニーズを聞いて商品に反映している。

○田中勝士委員

陶磁器産業における製品の品質は、他国に対し優位性があるという認識でよいか。

○加藤伸治参考人

その認識でよいが、一方でユーザーがどこまで高品質を求めているかという問題もある。日本の陶磁器の品質は、ユーザーの需要に対してオーバースペックではないかと思っている。

○田中勝士委員

食器は食べ物が直接触れるものであることから、意識の高い人は、量販店で多く売られている中国製の食器などは購入しないと思われるがどうか。

○加藤伸治参考人

大前提として、同じ認識を持っている。ただし、品質の良いものを数多く作ることにについて、日本のメーカーはかなり力を失っているため、高付加価値に行かざるをえないという面もある。日本のメーカーが高品質で安心な製品を高価格で販売した場合、ユーザーがそれを選ぶかどうかということである。

○田中勝士委員

海外の取引先としてサウジアラビアやインドネシアが紹介されていたが、中東や東南アジアに展開することとなったきっかけは。

○加藤伸治参考人

シェフの方やパリストの方に特化したブランドを展開しており、各業界で有名な方が自社の商品を使用していることが、それぞれの業界に存在するトップクラスのコミュニティ内で口コミが広がり、先方からの依頼で取引が始まったものである。

○岩井豊太郎委員長

ご質問等も尽きたので、第1部を終了する。
大変貴重なご報告をいただき、感謝申し上げます。
第2部準備のため、しばらく休憩する。

午前10時44分 終了

午前10時49分 再開

○岩井豊太郎委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開する。
第2部として、自社技術の創造と国際的視野を持つ技術者の育成について、ご報告いただく。
参考人の皆様にあつては、ご多用のところ、お越しいただき感謝申し上げます。
質疑については、終了後にお願いします。
それでは、参考人からの報告をお願いします。

(挨拶・議題に関する報告：上田勝弘参考人、柳瀬靖治参考人)

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、ご質問等はあるか。

○田中勝士委員

金型技術は日本のモノづくりの中核であり、岐阜県の産業を支える技術だと思っている。
そのうえで、人材育成が重要と考えており、以前、県内の工業高校が連携して金型グランプリを実施していたが、現在も継続されているのか。

○上田勝弘参考人

私が日本金型工業会の会長だった12年前から日本・中国・韓国の大学が参加して、日本で開催しており、現在も実施している。それが岐阜県内の工業高校で数年前から、岐阜県金型組合の提案により日・中・韓大学の金型グランプリを模して、実施される様になった。

○田中勝士委員

岐阜工業高校内に航空機械工学科とモノづくり教育プラザを設置しているが、全体の産業規模や県内の企業へ与える影響から考えれば、工業高校に金型の専門学科があってもよいのではないかと思うがどうか。

○上田勝弘参考人

韓国では47校程度の大学と専門学校と高校に金型の専門学科があり、高校の段階から金型を学んでいる。日本では、金型を研究している大学は8大学程度思い浮かぶが、本格的に金型を学べるのは岐阜大学だけである。モノづくりの原点である金型への理解が欠けていることから、高校に金型の専門学科ができることは歓迎する。

○田中勝士委員

工業高校に通っていても金型がどういうものかイメージができないのではないかと。

○上田勝弘参考人

金型を町工場の技術と捉えるのではなく、大学のレベルでアカデミックに研究していくべきである。全国の大学の機械工学学科で同じことを教えるのではなく、金型といえば岐阜と言われるように岐阜大学を応援してきた。

○田中勝士委員

平成19年の企画経済委員会の視察で貴社を訪問した時には、フロッピーディスクの部品用の金型を作られていたが、今日の説明では製品も作られているということであった。どのような変化があり、製品を作られるようになったのか。

○上田勝弘参考人

金型だけではだめだという認識はあったが、中途半端な技術力で製品の大量生産を始めると、その後の技術力が伸びないと考えていた。そのため、平成19年の頃は、経営が苦しくても金型技術のレベルアップに注力していた。レベルアップした技術力で作る製品にこそ、付加価値を求めることができる。

○岩井豊太郎委員長

排気ガスを無害にするハニカム触媒用金型の説明があったが、イビデンの工場でもセラミック技術を活用した排気ガスの空気清浄フィルターを製作しており、フランスとハンガリーにも進出していると聞いたことがある。

○上田勝弘参考人

イビデンの排気ガス用のフィルターはディーゼルエンジン専用であり、ドイツやヨーロッパ諸国でディーゼルエンジン車の製造が禁止されたことからヨーロッパでの事業は縮小していると聞いている。

○岩井豊太郎委員長

質疑も尽きたようであるので、報告については終了とする。

本日は、大変貴重な報告をいただき重ねて感謝申し上げます。

以上で、本日の議題を終了する。

最後に、私からお知らせをさせていただく。

特別委員会の調査期間については、特に設けられておらず、2年程度で提言報告を目指してきたところであり、当委員会を含めた4つの特別委員会は、令和元年に設置され、今年度が2年目の提言報告の年度となるところである。

特別委員会で取り扱う重点調査項目は、いずれも部局横断的なテーマで多岐にわたるが、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察をはじめとした調査が十分にできない状況にある。

こうした状況を踏まえて、先月20日に開催された議会運営委員会において、議長より、2年程度としている調査期間を延長し、途中、中間提言報告を挟み、4年程度で最終提言報告をとりまとめることを目指してはどうかとの提案があり、了承されたのでお知らせする。

委員各位には、引き続き、正副議長、監査委員に就任する場合を除き、当委員会に所属していただくこととなるので、引き続き、よろしく願います。

この件に対して、質問はないか。

(「なし」の声あり)

○岩井豊太郎委員長

質疑もないようであるので、これをもって本日の委員会を閉会する。

産業競争力強化対策特別委員会 配席図

令和2年12月16日(水)午前10時から
於議會西棟3階 第2会議室

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

		小島 県産品流通 支援課長	浅井 産業技術課 IT利用促進室長	松原 新産業・エネルギー 振興課成長産業企画監 兼航空宇宙産業課 航空宇宙産業連携監	
--	--	---------------------	-------------------------	--------------------------------------------------------	--

参考人席	参考人席	吉川 地域産業課長	郷 産業技術課長	辻 新産業・ エネルギー振興課長	田上 航空宇宙産業課長
------	------	--------------	-------------	------------------------	----------------

	参考人席	樋口 商工労働部次長 兼東京オリンピック・ パラリンピック 県産品活用促進総括監	崎浦 商工労働部長	副島 商工労働部次長 (産業人材担当)	桑田 商工政策課長 兼亜炭鉱廃坑対策室長
--	------	------------------------------------------------------	--------------	---------------------------	----------------------------

山内委員	○
広瀬委員	○
松村委員	○
渡辺委員	○
平岩副委員長	○

○	安井委員
○	恩田委員
○	田中委員
○	小川(恒)委員
○	伊藤(正)委員
○	岩井委員長

参考人席
(発表時)

スクリーン